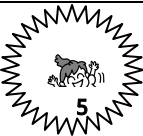


2 指導と評価の計画（全20時間）

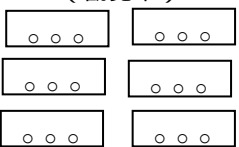
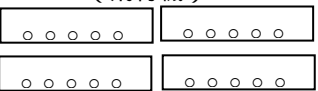
時	学習活動	評価項目（評価方法）	支援及び指導上の留意点
1 (T T)	・遊園地の入り口付近の絵を見て、並んでいる人の人数を数える。 ・遊園地の絵を見てボートやゴーカートに乗っている人の人数をかんたんに数える方法を考える。 ・単元のめあて「数を上手に数える方法を考えるための新しい計算をかんがえよう」をつかむ	【関】 乗り物に乗っている人の人数を進んで求めようとしている。 (観察・発言)	・乗っている人数を分かりやすくするために、おはじきを並べたり、絵や図に描いたりして考えるように助言する。 ・多様な方法を比較しながら、この単元では数を上手に数える方法を考えるという見通しをもつことができるようにする。
2 (T T)	・ジェットコースターとコーヒーカップに乗っている人の数の様子について似ているところと違うところを考える。 ・ジェットコースターとコーヒーカップに乗っている人の数の様子から「1つ分の大きさ」と「いくつ分」ととらえ、言葉で表現する。	【考】 全体の数を「1つ分の大きさ」と「それがいくつ分」という考え方で求めている。 【知】 乗法が使われる場面を理解している。 (観察・発言・ワークシート)	・多様な考えにふれることができるように、乗り方で似ているところ違うところをグループで話し合う。 ・グループの話し合いでは、意見が出しやすいように、3, 4人の少人数にする。また、話し合いの視点を明確にする。 ・言葉の定義は、児童が理解しやすいように図の表現との関連を図りながら行う。 ・乗法が使える場面を意識できるようにするために、均等分布とそうでない分布の場面の違いを明確にする。
3 (T T)	・船に乗っている人数を数える。 ・絵や図や式や言葉を使って自分の考えで答えを求める。 ・乗法の意味をまとめる。 ・乗法の式表示の方法を知る。	【知】 数量の関係を「単位とする大きさ」の「いくつ分」ととらえ、それを簡潔に表したものが乗法の式であることととらえている。 (観察・ノート)	・一人ずつ数えている児童には、速く数える方法はないか助言し、5つのまとまりを意識できるようにする。 ・乗法の定義を行うときには、乗法が使われる場面をイメージできるように言葉だけでなく図を用いる。
4 (T T)	・身の回りから 3×4 の式に当てはまる事象を探し、絵や図で表す。 ・そのことがらが正しいことを言葉で説明する。	【考】 「3のまとまりが4つ」という乗法の意味を根拠として絵や図、言葉で表している。(観察・ノート)	・なかなか思いつかない児童には、3×4 の式の意味を想起するよう助言する。 ・多様な考えにふれられるようにグループ活動を行う。
5 (T T)	・6本入りの箱に入った鉛筆4箱分の鉛筆の総数を数える。 ・6×4 はいくつになるか考える。 ・「6のまとまりが4つ」ということを表すのにどのような図で表すのが分かりやすいか考える。 ・乗法の積は加法の累加で求められることを知る。	【考】 乗法で表されたときの全体の大きさは、累加によって求めることができるのととらえている。 (観察・発言)	・実物やおはじき、ブロックなどの半具体物の操作を通して乗法の式と累加によって求めた答えの関係を理解できるようにする。 ・具体的な操作を目に見えるようにするために図に表す活動を行う。 ・図で表されたものを比べながら、簡単な表現方法について話し合い、○や□を用いて簡単に表せばよいことに気付くことができるようにする。
6 (T T)	・ジャンケンゲームをして、パーで勝った時の得点を求める方法を考える。	【知】 「1つ分の大きさ」「それがいくつ分」ととらえて全体の大きさを求め、5の段の乗法九九を	・ジャンケンゲームを取り入れ、児童の興味・関心を高められるようにする。 ・累加によって求める方法が分かりやすいので、累加によって式の答えを

	 ・ 5 の段の乗法九九の構成のしかたを知る。 ・ 5 の段の乗法九九をまとめる。	構成のしかたがわかる。 (発言・ノート)	求め、乗法九九を構成していく。
7 (少人数)	・ 5 の段の乗法九九の唱え方を知る。 ・ 5 の段の乗法九九を唱え、覚える。 ・ 5 の段の乗法九九のカードを作る。	【知・表】 5 の段の九九の唱え方がわかり、正確に唱えている。 (観察・発言)	・ 乗法の意味をイメージできるように、カードは式によって大きさを変えて提示する。 ・ 繰り返し唱え、丁寧にはっきりと言えるようにする。 ・ 最初は順に行うが、順不同でも唱えられるように、順番を変えて唱える機会をつくる。
8 (TT)	・ カードを使って、乗法九九ゲームをする。 ・ カードを裏返して並べ、カードを取り合う。	【関】 友達と協力して進んでゲームを行っている。 (観察)	・ 楽しく活動できるように、一人で練習したり、二人組で言い合ったり、グループで取り合いをしたりする活動を取り入れる。
9 (TT)	・ 1 台に二人ずつ乗っている自転車の台数とそのときの総人数を調べる。 ・ 自転車が 1 台、2 台、3 台・・・になった場合を考え、2 の段の乗法九九を構成する。 ・ 2 の段の乗法九九をまとめる。	【考】 「1 つ分の大きさ」「それがいくつ分」をとらえて全体の大きさを求め、2 の段の乗法九九を構成している。 (観察・発言・ノート)	・ 数えられない児童には、アレイ図やおはじきの操作を使って考えるよう助言する。 ・ 児童が具体物や半具体物を操作しながら、式と乗法の場面を関連づけられるように問い掛けをする。
10 (少人数)	・ 2 の段の乗法九九の唱え方を知る。 ・ 2 の段の乗法九九を唱え、覚える。 ・ 2 の段の乗法九九のカードを作る。	【知・表】 2 の段の九九の唱え方がわかり、正確に唱えることができる。 (観察・発言)	・ 繰り返し唱え、丁寧にはっきりと言えるようにする。 ・ 最初は順に行うが、順不同でも唱えられるように、順番を変えて唱える機会をつくる。 ・ 5 の段と同じように乗法の意味をイメージできるように、カードは式によって大きさを変えて提示する。
11 (TT)	・ カードを使って、乗法九九ゲームをする。 ・ カードを裏返して並べ、カードを取り合う。	【関】 友達と協力して進んでゲームに参加している。 (観察)	・ 楽しく活動できるように、一人で練習したり、二人組で言い合ったり、グループで取り合いをしたりする活動を取り入れる。
12 (TT)	・ 皿にのせてあるお茶碗の数を数える。 ・ 5 の段、2 の段の乗法九九の構成のしかたを想起し、3 の段の九九の式を考える。 ・ 3 の段の乗法九九を作りグループで話し合い、3 の段の乗法九九を構成する。 ・ 「かけられる数」「かける数」の用語の意味を知る。	【考】 具体的な事象から 1 つ分の大きさやいくつ分をとらえ、累加で全体の大きさを求め、3 の段の乗法九九を構成している。 (観察・発言・ノート)	・ 児童が 3 の段の乗法九九を構成しやすくするために、5 の段、2 の段の構成の仕方を確認する。 ・ アレイ図やおはじきの操作と結びつけて考えるよう助言し、前の積に被乗数をたすと次の積が求められることに気づけるようにする。
13 (少人数)	・ 3 の段の乗法九九の唱え方	【知・表】	・ 繰り返し唱え、丁寧にはっきりと言

	を知る。 ・ 3 の段の乗法九九を唱え、覚える。 ・ 3 の段の乗法九九のカードを作る。	3 の段の九九の唱え方がわかり、正確に唱えることができる。(観察・発言)	えるようにする。 ・ 最初は順に行うが、順不同でも唱えられるように、順番を変えて唱える機会をつくる。 ・ 乗法の意味をイメージできるように、カードは式によって大きさを変えて提示する。
14 (T T)	・ カードを使って、乗法九九ゲームをする。 ・ カードを裏返して並べ、カードを取り合う。	【関】 友達と協力して進んでゲームを行っている。 (観察)	・ 楽しく活動できるように、一人で練習したり、二人組で言い合ったり、グループで取り合いをしたりする活動を取り入れる。
15 (T T)	・ 4×3 の式を書き、累加や乗数と積の関係から 4 の段の乗法九九を構成する方法を考える。 ・ 4 の段の九九を構成する。	【考】 具体的な事象から 1 つ分の大きさ、いくつ分をとらえ、累加で全体の大きさを求め、4 の段の乗法九九を構成している。 (観察・発言・ワークシート)	・ 構成できない児童には、3 の段の学習をふり返るよう助言し、乗数と積の関係から 4 の段の乗法九九を構成できるようにする。 ・ 積が求められない児童には、ブロックで 4×3 の式を表すよう助言し、積を求めることができるようにする。
16 (少人数)	・ 4 の段の乗法九九の唱え方を知る。 ・ 4 の段の乗法九九を唱え、覚える。 ・ 4 の段の乗法九九のカードを作る。	【知・表】 4 の段の九九の唱え方がわかり、正確に唱えることができる。 (観察・発言)	・ 繰り返し唱え、丁寧にはっきりと唱えるようにする。 ・ 最初は順に行うが、順不同でも唱えられるように、順番を変えて唱える機会をつくる。 ・ 乗法の意味をイメージできるように、カードは式によって大きさを変えて提示する。
17 (T T)	・ カードを使って、乗法九九ゲームをする。 ・ カードを裏返して並べ、カードを取り合う。	【関】 友達と協力して進んでゲームを行っている。 (観察)	・ 楽しく活動できるように、一人で練習したり、二人組で言い合ったり、グループで取り合いをしたりする活動を取り入れる。
18 (T T)	・ 乗法九九表に今まで学習した九九を書き込む。 ・ 乗法九九表の見方を知る。 ・ 乗法九九を唱える	【知】 九九表に乗法九九の 2 の段から 5 の段までの九九の答えを書き込む活動を通して、九九表の見方を知る (観察・発言・ワークシート)	・ 九九表の見方が分からない児童には、5 の段の乗法九九を一緒に書き込み、行と列の関係を理解できるようにする。
19 (T T)	・ 教室の中から乗法の場面を探し、式で表す。 ・ 探し出した考えをグループに分かれて発表する。	【関】 乗法で表せる場面を進んでみつけようとしている。 【表】 乗法の場面を式で表している。 (観察・ノート)	・ 並べることができない児童には、乗法の使われる場面はどんな場面だったかを確認するように助言する。 ・ 1 つ分の大きさ、それが何個分あるのかを意識して考えられている児童を賞賛し、自信をもてるようにする。
20 (T T)	・ 24 個のブロックでできた直方体のブロックの総数の数え方を考える。 ・ 自分の考えを発表し、数え方の似ているところについて話し合う。	【考】 全体の数を「1 つ分の大きさ」「それがいくつ分」という見方で考え、加法や乗法で求めている。 (観察・発言・ワークシート)	・ 児童一人一人にブロックを配布し、数え方を考えられるようにする。 ・ 多様な考えにふれられるようにグループ活動を行う。

見通し 1 にかかわる実践（第 2 時）

- (1) ねらい 観覧車と飛行機に乗っている人数を「単位とする大きさのいくつ分」と
とらえ、乗法が使われる場面に気付く
- (2) 準備 問題の絵（黒板掲示用） おはじき 数え棒 ワークシートマジック
- (3) 展開 十分満足 ○ おおむね満足

学習活動	時	支援及び指導上の留意点	評価項目
1 本時の問題を 知り、めあてを つかむ。	3	・問題が理解しやすいように、絵の拡大図を黒板に掲示する。 ・観覧車に乗っている人数を求めることで、数え方の確認をする。	
2 観覧車と飛行 機に乗っている 様子を絵や図で 表してみる。	7	・実物に近い絵を描いているできる限り簡単に早くかける方法はないか問い掛け、人数と個数に着目できるようにする。	
3 似ているところ と違うところ を考える。	10	・考えが思いつかない児童には、ブロックやおはじき、数え棒を使って考えるよう助言する。 ・乗り物の数や色などの着目している児童には、考えを認めながら、乗っている人数に着目するように助言する。 ・相違点 - 乗っている子どもの全部の数 - 乗っている乗り物（形、色、個数） 1つの乗り物に乗っている人数 ・共通点 - 両方とも同じ数ずつ乗っている。 - みんな楽しそうに乗っている。	【考】 全体の数を「1つ分の大きさ」と「それがいくつ分」という考え方で求め、乗法が使われる場面とそうでない場面に気付いている。 ○全体の数を「1つ分の大きさ」と「それがいくつ分」という考え方で求めている。
4 グループで数 え方の似ている ところと違うと ころを話し合 う。	10	・4～5人のグループに分かれて話し合うようにする。 ・話し合いが進まないグループには、数に着目して調べるように助言する。 ・同じ数ずつ乗っている共通点に気付かない場合には、何人ずつ乗っているかを問いかけ、気付くことができるようにする。	
5 発表する	5	・グループで話し合ったことを2色の色紙にまとめ、黒板に掲示する。 ・観覧車は「1だいに3人ずつ、6だいぶんで18人」 ・飛行機は「1だいに5人ずつ、4だいぶんで24人」と言葉でまとめ、両方とも同じ数ずつ乗っていることが分かるようにする ・「同じ数ずつ乗っている」というところを絵で表し、乗法が使われる場面が言葉だけでなくイメージで理解できるようにする。 （観覧車）  （飛行機） 	
5 まとめる	10	・同じ数ずつ乗っている場合とそうでない場合があることを確認し、この単位ではそのような場合の数え方を考えていくことを伝え、本時のまとめとする。	

見通し 2 にかかわる実践（第 5 時）

（１）ねらい 乗法で表されたときの全体の大きさは，累加によって求めることができることを理解する。

（２）準備 鉛筆 数え棒 ブロック

（３）展開

十分満足

○おおむね満足

学習活動	時	支援及び指導上の留意点	評価項目
1 本時の問題を知り、めあてをつかむ。	5	・問題の状況を分かりやすくするために、実物の鉛筆を児童に提示する。 ・全体の数を求めるというめあてをはっきりさせて、板書する。	
2 鉛筆の総数を数える。	20	・考えが思いつかない児童には、ブロックやおはじき、数え棒を使って考えるよう助言する。 ・図に表し、一つずつ数えている児童には、速く数えるにはどうしたらよいかと問い掛け、まとまりに気付くことができるようにする。 ・図に表し、いくつかのまとまりで数えている児童には、式に表すことができないか助言し、乗法や加法で求めることができるようにする。 ・加法で求めている児童には、乗法で表せないか問い掛け、乗法と加法との関係に気付くことができるようにする。 ・乗法で求めている児童には、なぜ乗法で表せたのかを問い掛け、答えは加法で求められることに気付くようにする。	【考】 乗法で表されたときの全体の大きさは，累加によって求めることができるのとらえどんな場面でも累加で求めればよいことに気付く。 ○乗法で表されたときの全体の大きさは，累加によって求めることができるのとらえている。 （観察・発言）
3 数え方を発表し総数の求め方について話し合う。	15	・図と乗法の式を比べて、乗法の意味について確認できるようにする。 ・実物と似ている図と○や□を使って簡単に描いた図を比較し、どちらも同じことを表していることを確認し、○や□を使ってかいた方が早く分かりやすいことに気付くことができるようにする。 ・乗法は加法の累加で求められることを確認し、板書する。	
5 まとめる	5	・今日の学習をふり返りまとめとする。 ・ノートに今日の学習についてのふりかえりを書くように助言する。	

見通し2にかかわる実践（第7時）

（1）ねらい 5の段の九九の唱え方がわかり、正確に唱えている。

（2）準備 工作用紙 はさみ

（3）展開 十分満足 ○おおむね満足

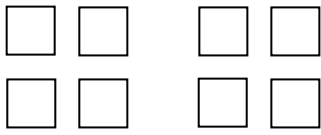
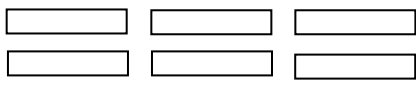
学習活動	時	支援及び指導上の留意点	評価項目
1 本時の問題を知り、めあてをつかむ。	5	・前時の学習を想起するために、5の段の乘法九九について構成の仕方や式を確認する。 ・5の段の乘法九九の唱え方について学習することを伝え、上手に唱えられることや覚える方法について考えることをつたえる。	
2 5の段の乘法九九の唱え方を知り、正確に唱える。	10	・最初にゆっくり正確に教師が唱え、復唱し、唱え方を正確に理解できるようにする。 ・ノートに唱え方を書くようにの助言し、正確に覚えられるようにする。 ・最初にノートを見ながら唱え、次第に見ないで唱えられるように繰り返し全員で唱える。 ・グループに分かれてお互いに正確に唱えられるかを確認できるようにする。 ・自信のある児童を指名して唱え、上手に唱えられたことを賞賛し、自信を持てるようにする。	【知・表】 5の段の九九の唱え方がわかり、順番でなくても正確に唱えている。 ○5の段の九九の唱え方がわかり、正確に唱えている。 （観察・発言）
3 乘法九九カードを作成する。	20	・式の意味を想起しやすいように、工作用紙にあらかじめ罫線を引いておく。 ・やり方を理解できるように5×3のカードの作り方について全体で確認してから作り始めるようにする ・作り方の分からない児童には、乗法の式の意味を思い出すようにように助言し、乗法の式の意味からカード作りができるようにする。 	
4 カードを使ってカルタゲームをする。	7	・カードを表にして置き、最初に教師が式を読み、カードを取るゲームをする。 ・慣れてきたら裏返して同じように行う。 	
5 まとめる	3	・今日の学習をふり返りまとめとする。	

見通し 3 にかかわる実践（第 19 時）

（１）ねらい 身の周りの数量の関係を「単位とする大きさ」の「いくつ分」ととらえ、それを乗法の式に表すことができる。

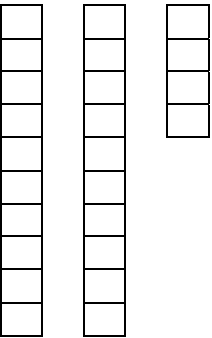
（２）準備 たんけんバインダー ワークシート

（３）展開 十分満足 ○ おおむね満足

学習活動	時	支援及び指導上の留意点	評価項目
1 本時の問題を知り、めあてをつかむ。	5	・ 教室の中の机の数を例としてあげ、活動に興味をもつことができるようにする。 ・ 探す見通しがもてるように乗法の意味について確認しておく。	
2 校舎の中からかけ算の式で表されるものを見つける。	25	・ 探し始められない児童には、教室の中の例を挙げ、乗法の意味をブロックで確認してから探すよう助言する。 ・ 多様な考えに触れることができるように、グループで活動する。 ・ 自分を整理できるようにワークシートを配布する。また、絵や図、式で表現するように助言する。	【関】 教室や教室以外の場所で乗法で表せる場面を進んでみつけようとしている ○ 教室の中から乗法で表せる場面を進んでみつけようとしている
3 発表する	10	・ 窓の数  2×4 (4×2)  (3×2) ・ 天井の板の数、床の板の数、いすの数、掲示物の紙の数などまとまりの見方を変えると違う式になることにも触れる。 ・ 図と言葉と式とを関連づけられるように問い掛け、乗法の意味が理解できるようにする。	【考・表】 身の周りの数量の関係を「単位とする大きさ」の「いくつ分」ととらえ、いろいろな見方でそれを乗法の式に表すことができる。 ○ 身の周りの数量の関係を「単位とする大きさ」の「いくつ分」ととらえ、それを乗法の式に表すことができる。
4 まとめる	5	・ 今日の学習をふり返りまとめとする。 ・ ノートに今日の学習についてのふりかえりを書くように助言する。	

見通し 3 にかかわる実践（第 20 時）

- (1) ねらい 2 4 個のブロックでできた直方体の数の数え方を考え、数え方の似ているところについて話し合う活動を通して、いくつかのまとまりで数えるよさと、まとまりで数えるときに乗法が用いられることについての理解を深める。
- (2) 準備 ブロック ワークシート
- (3) 展開

学習活動	時	教師の支援及び留意点		評価項目 (○ おおむね、 十分)
		T 1	T 2	
1 本時の課題を知り、めあてをつかむ。 	10	- 最初に 2 行 × 2 列 × 2 段の立方体を示し、いくつかのブロックでできているか、また、どのように数えればよいかを問い掛け、ブロックを数えることへの動機付けを図る。 - 数え方に思考が向くように、総数 2 4 個を確認してから数える活動に入るようにする。	- ブロックを操作する。 - 本時のめあてを黒板に掲示し、学習の見通しをもてるようにする。	
2 ブロックの数を数える方法を考え、ワークシートに記入する。 (予想される児童の考え) (1) 一つずつ数える。 (2) 均等ではなく適当な数のまとまりで数える。 式 $10 + 10 + 4$ 畜 10 こずつ 2 回とっていったら 4 つあまる。 図  (3) いくつかのまとまりが何個分という考え方で数えている。 (あ) 式 $4 + 4 + 4 + 4 + 4 + 4$	15	- 児童一人一人に直方体の形のブロックを配布し、一人一人の児童が操作して考えられるようにする。 - 多様な考えに触れられるように 4 人グループで活動する。 - 一つずつ数えた児童や単位量 × その個数という数え方をしていない児童には、同じまとまりが見つからないか問い掛け、乗法が用いられる場面に気付くことができるようにする。 - 乗法で表現している児童には、なぜその式になったのかを問い掛け、乗法の使われる場面を確認できるようにする。また、よく考えられたことを賞賛し、他の乗法で求められないか問い掛ける。 - 図で表した児童には、式で	- 直方体の形をもとにして数え方を考えられるように、ブロックは形が崩れないようにして児童に配布する。 - どのように数えたらよいかわからない児童に声をかけ、黒板の前に集める。 - いくつかのまとまりごとに数えられないか問いかけ、実際に教師が数えてみることで数え方の見通しをもてるようにする。 - 累加の加法で表した児童には、「～が・・・こ」という言葉で表現してみるように問い掛け、乗法が使われる場面に気付くことができるようにする。	【考】 全体の数を「一つ分の大きさ」「それがいくつ分」という見方で考え、加法や乗法で求めている。全体の数を「一つ分の大きさ」「それがいくつ分」という見方で考え、いろいろな加法や乗法で求めている。 (観察・発言・ワークシート)

畜 4 このかたまり が 6 こある (い) $3 + 3 + 3 + 3 + 3 + 3 + 3 + 3$ (う) $2 + 2 + 2 + 2 + 2 + 2 + 2 + 2$ (え) $6 + 6 + 6 + 6$ (お) $8 + 8 + 8$ (か) $1 + 1 + \dots + 1$ (き) $12 + 12$ (あ') 4×6 (い') 3×8 (う') 2×12 (え') 6×4 (お') 8×3 (か') 1×24 (き') 12×2 (図、言葉の表現は省略)		表したらどうなるか問い掛け、乗法が用いられる場面に気付くことができるようにする。 ・T2 と児童の考えの把握をし、発表の児童の打ち合わせを行う。 ○乗法について考えを深めていけるように、いくつかのまとまりが何個分という考え方で数えている児童の(あ)、(い)、(う)(え)の意見を取り上げるようにする	・T1 と児童の考えの把握をし、発表の児童の打ち合わせを行う。	
3 数え方を発表し、数え方の似ているところについて話し合う。 (予想される児童の考え) (1) 表現方法についての類似点 ・絵を使っている。 ・乗法で求めている。 ・加法で求めている。 (2) 数え方の類似点 (あ) 4つのまとまりで数えている。 (い) 3つのまとまりで数えている。 (う) 2つのまとまりで数えている。 (え) 6つのまとまりで数えている。	15	○どのような考え方があるのか確認するために、黒板に掲示された意見について一人一人発表するよう助言する。 ○発表後、似ている意見はないか問い掛け、乗法の意味や加法との関係に気付くことができるようにする。 ○表現方法の類似点について出てきた場合には、気付いたことを賞賛し、自信がもてるようにする。 ○(あ)(い)の考えについては、式で表された理由について問い掛け、乗法の用いられる場面を言葉や図で確認できるようにする。 ○(う)の考えについては、乗法九九にないことを問い掛け、乗法九九になくても乗法の意味からその考えの正しいことを確認できるようにする。 ○(え)の考えについては、既習の乗法九九にないことを問い掛け、乗法九九になくても乗法の意味からその考えの正しいことを確認できるようにする。また、今後学習する乗法九九の見通しがもてるようにする。 ○乗法の意味の理解を深めるため、図と加法、乗法の式の関連を図りながら発表できるようにする。 ○ものの数を数えるときに、幾つかのまとまりで数えるときや幾つかのまとまりで数えるときに乗法が使われることを確認する。	○友達の意見をきちんと聞けるように、机間支援しながら必要に応じて声をかける。	
4 本時の学習を振り返り、まとめをする。	5	○本時のめあてを確認するように問い掛け、めあてに対して振り返ることでまとめとする。		